

自分たちの県のことだから、ちゃんと知りたい。でも難しい(かった)。そんなあなたのために改めて。

兵庫県のお金のこと。

家ならお金の流れはだいたいわかる。

「兵庫家」のふところ事情を のぞいてみよう。

例えば、あるおうちでは、お父さんとお母さんが
1ヶ月働いた分のお給料が入ってくる。
だいたいそれが、主な収入。

出ていくお金は、家(のローン)や家電の購入など、
衣・食・住に、こどもの習い事、たまにみんなで旅行、
あ、今月はケガして病院でもお金払ってた。

じゃあ、県のお金って、どうなってるの？
「兵庫家」の、ふところ事情をのぞいてみよう！



兵庫家の 家計簿

県の収入と支出にはどんな種類がある？

| 県の収入 【主なもの（多い順）】 | 県の支出 【主なもの（多い順）】 |
|--|--------------------------------|
| 1位：県税等（県内に住んでいる人がみんなであつたを支えるために出しているお金） | 1位：商工費（地域の会社の支援など） |
| 2位：諸収入等（県の施設などの使用料・手数料、ふるさと納税、貸したお金の返済など） | 2位：民生費（子どもや高齢者、身体の不自由なひとなどの支援） |
| 3位：国庫支出金（国から渡されるお金。だけど、使いみちが決められている） | 3位：教育費（先生の給料や校舎の耐震化、図書館づくり） |
| 4位：地方交付税等（全国どこでも同じ水準のサービスが行えるよう、国から渡されるお金） | 4位：公債費（県が借りたお金の返済） |
| 5位：県債（県の施設を作るための借金など） | 5位：総務費（県職員給料など） |



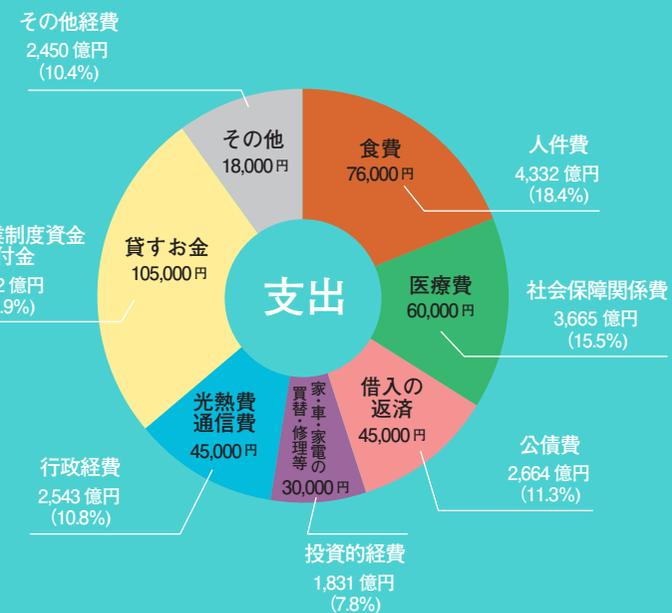
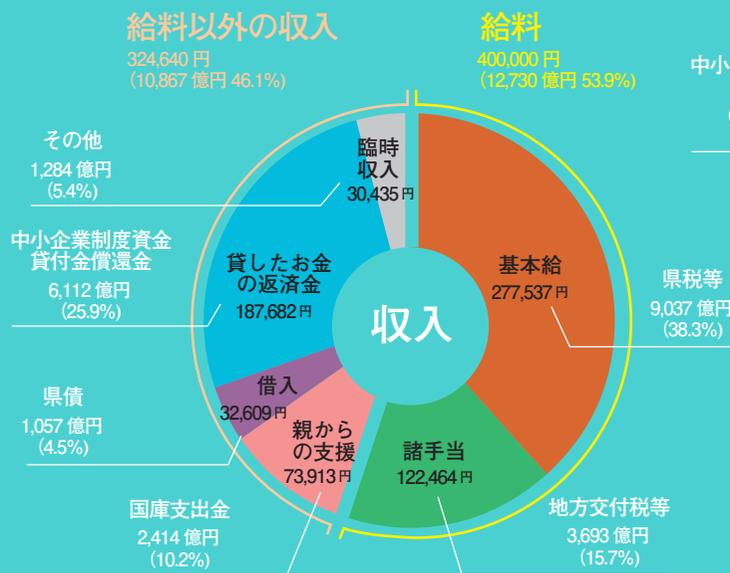
財政運営目標を家計に例えると？

〈令和10年度までの目標〉

| 収支 | 収支均衡を目指す |
|---|--------------------------------------|
| 入ってくるお金と出ていくお金 | 入ってくるお金の範囲内で家計をやりくりする。 |
| 実質公債費比率 (単年度・3か年平均) | 21%程度 |
| 給料に対するローン返済額の割合 | 年収480万円の兵庫家では、年間のローン返済額を100万円程度に収める。 |
| 将来負担比率 | 305%程度 |
| ローン残高が給料の何倍になるか計算したもの | 年収480万円の兵庫家では、ローン残高を1,464万円程度に収める。 |
| 経常収支比率 | 100%未満を維持 |
| 衣食住など、生活する上でなくてはならない出費が、給料など、経常的に入ってくるお金に対しどれくらいの割合かを示すもの | 給料を増やしたり、なくてはならない出費を抑える。 |

じゃあ県の予算を家計に例えると？

県の令和5年度当初予算（23,597億円）を月収40万円（年収480万円）の家計に例えると・・・



※県の予算状況について具体的なイメージを持っていただくため、ここでは月収40万円（年収480万円（借入等を含む））の家計に置き換えて記載しています。
 ※実際の家計とは収入・支出などの構成等は大きく違うため、本来は置き換えることはできませんが、「仮に置き換えた場合」という視点で作成しています。
 ※上記のグラフの数値については端数処理の関係上、合計額と一致しない箇所があります。

借金したり、切り詰めたり。

兵庫家では こんなことがありました。

—— 兵庫家の家計簿ストーリー ——

Chapter

1

阪神・淡路大震災。
創造的復興に向けて。

ぼちぼち、普通の暮らしをしていた兵庫家。
ところが28年前、阪神淡路大震災が起きます。

崩れた道路、橋、学校、病院、水道……
崩れた、私たちの毎日の暮らし。

民間で“ボランティア元年”と言われる
助け合いが立ち上がったあの時、
兵庫県もまた、国からの支援を待たずに
動き始めました。

地震で産業も大きな打撃を受け、
人口も減っていく中、
兵庫家も家は建て直さないとならないし、
赤ちゃんやお年寄りのお世話も
後回しにできない。

「誰も取り残さず、みんなが元気になる、
特に教育や防災などは
以前よりしっかりやる」と、
兵庫家は方針を決めました。

名付けて「創造的復興」。
震災に負けるもんか。



誰も取り残さず、
家族みんなが元気になるために。



創造的復興へのみちのり

平成 30 年に 収支均衡を達成

ついに兵庫家は、収入と支出が同額になりました。借金を返すための借金がなくなったということです。

財政収支の推移（単位：億円）



収支均衡
を達成！

県職員の人件費を削減。 もちろん知事の給与カットも。

まず手をつけたのは人件費。全職員の給与をカットするとともに職員数は10年間で3割削減しました。なお、知事や管理職等の給与カットは現在も続けています。

創造的復興 (ビルド・バック・ベター) に向けて

ひとと地域の活力を取り戻し、災害に強いひと・まち・文化を創るため、地域コミュニティの再構築や、災害時にも対応できる人材育成にも取り組みました。また、人と防災未来センターを創設し、震災の教訓を伝える取り組みを推進しています。

復興のために行った借金（県債）は1兆3千億円にのぼります。それは、前年の年収（歳入）とほぼ同額。この借金の返済が、兵庫県の財政を悪くした大きな要因となりました。

県債残高の推移（単位：億円）



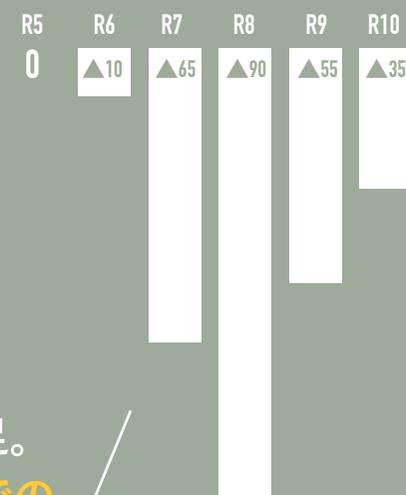
それでも・・・
厳しい状況はつづく。

県の財政状況は、新型コロナウイルスや震災復興のための借金の返済などの影響で厳しい状況が続いており、令和4年度の試算では令和5年度から10年度までの収支不足額として255億円が生じる見込みです。

新型コロナウイルス
や震災復興のための
借金の返済などの
影響で・・・



財政収支の見通し（単位：億円）



255 億円の不足。
令和10年度までの
目標は収支均衡！

でも、切り詰めるばかりの生活は、
なんだかしんどい。
贅沢な暮らしがしたいわけ
ではないけど、
未来への投資も
必要です。

県政改革方針で定める
取組等はこちら



私たちが、新たな気持ちで、これからの未来のこと、
 どういう兵庫県をつくっていくかということ、
 みなさんと一緒に考え、
 取り組ませていただけたらと思っています。
 さあ、行きましょう！ 次のステージへ。

【ひょうごビジョン 2050】 — 2050 年の兵庫の姿 —
 誰もが希望をもって生きられる。一人ひとりの可能性が広がる。

「躍動する兵庫」

- 5つの目指す社会
- I 自分らしく生きられる社会
 - ①自由になる働き方 ②居場所のある社会 ③世界へ広がる交流
 - II 新しいことに挑戦できる社会
 - ④みんなが学び続ける社会 ⑤わきあがる挑戦 ⑥わきたつ文化
 - III 誰も取り残されない社会
 - ⑦みんなが生きやすい地域 ⑧安心して子育てできる社会 ⑨安心して長生きできる社会
 - IV 自立した経済が息づく社会
 - ⑩循環する地域経済 ⑪進化する御食国 ⑫活動を支える確かな基盤
 - V 生命の持続を先導する社会
 - ⑬カーボンプレートな暮らし ⑭分散して豊かに暮らす ⑮社会課題の解決に貢献する産業

「ひょうごビジョン 2050」で示す、めざす兵庫の姿を実現するためには、様々な施策を展開するための体力（お金）も必要です。
 今後も厳しい財政状況が続く中、県民のみなさんに信頼される県政を推進するための枠組みを引き続き、検討していきます。

（兵庫家の 2050年）

2050年。
 未来……27年後の2050年の兵庫家を
 考えてみました。

例えば、お父さんが、45歳としたら、
 72歳。
 お母さんも同じ年、72歳。
 いま18歳の“あなた”は、45歳。

なにか、毎日誰かの役に立ってるー！
 って思える仕事ができている、
 たまには家族や友人と旅行とか
 しながら、将来の話をしたり・・・
 お父さんとお母さんは、
 70歳代になっているから、
 健康に気をつけながら
 ゆっくりできているかな……

兵庫県の「ひょうごビジョン 2050」。
 兵庫家の夢が、このなかで
 実現していくのかどうか。
 “あなた”の将来のことも
 想像しながら、これからじっくり
 見ていってください！

